

# かたりべ 66

豊島区立郷土資料館だより

二〇〇一年度地域史講座の報告

## 江戸時代の道、見つけられましたか？

二〇〇一年度の郷土資料館最後の事業である地域史講座「フィールドワーク『村絵図を歩く』」を、三月一六日・二三日・三〇日の三回にわたって開催いたしました。

郷土資料館では、これまで「失われた水辺を探る」などをはじめとするフィールドワーク形式の地域史講座を開催してきました。今回の講座は、江戸時代に作成された現存する豊島区内の村絵図のうち、「池袋村絵図」と「栗鴨村絵図」を題材として、現在も残っている道やすでに失われてしまった古道を調べながら、区内を歩こうという企画です。

初日の一六日は、フィールドワークの事前学習ともいべきオリエンテーションで、村絵図や御府内場末沿革図書、明治時代終わり頃の地形図などを見ながら、地図の上で昔の道を探して、現在と比較する作業を行いました。

二日目の二三日は「池袋村絵図」を使っているフィールドワークです。勤労福祉会館前を出発し、立教大学の裏の通りが村絵図に描かれた道であることに、すこ

しばかり感動しつつ歩を進めて行きました。ところが霜田橋付近で雨が降りだしたので、商店の軒先を借りてしばしの雨宿り。「気象情報では晴れという予報だったのに…」と参加者一同はしぶい顔。しばらくして小降りになったので、再び歩きはじめましたが、ときわ通りを経て池袋三丁目の御嶽神社に着いたところで再び本降りに。境内の片隅でまたも雨宿りとなりましたが、雨が上がる気配もないので、止むを得ず途中解散ということになりました。

最終日の三〇日は、二日目とは違って快晴で、絶好のフィールドワーク日和。その天気には良かったですねが、「栗鴨村絵図」と二日目に歩けなかった部分の折衷コースという強行軍となりました。地下鉄新大塚駅から東福寺へ向かい、江戸橋・十文

字学園前・蛇子橋跡などを経て時習小学校の裏手に出るといふ順路で、「栗鴨村絵図」を、まずたどりました。そこから春日通り・川越街道を通って池袋本町の氷川神社に向かい、追分を経て平和通りを南下するという、二日目に行けなかったコースを歩き、池袋大橋の上り口付近で解散となりました。

現地解散ということもあり、残念ながらアンケートをお願いすることはできませんでしたが、残る「雑司が谷村絵図」と「高田村絵図」も歩いてみたいというご意見をいただきました。実現に向けて現在計画中です。その時も、多くの方のご参加を宜しくお願いいたします。（伊藤）



年不詳 池袋村絵図（東京都公文書館所蔵）



# 「思い出は資料館へ・2——区民寄贈生活資料展——」の報告

今回の展示は、二〇〇〇年度に開催した「思い出は資料館へ」に続くものです。

「区民の方から寄贈された資料を、なるべく早い時期に見ていただく」という考えから、それを引き継ぐ形で実施しました。展示資料は、これからずっと収蔵庫に保管され、展示や研究、小学生の学習のため等に活用されるものです。これらの資料を未来へ継承することについて、見学者の方は展示室でどのように考えていただけたでしょうか。企画者としては、とても気になっています。

ところで、当館では資料を寄贈してくださった方や情報を提供してくださった方に展示会の開催をお知らせしています。今回は、四九人の方からの寄贈資料を展示しましたので、開催のご案内を郵送しましたが、そのうち七人の方へは届きませんでした。それは、「あて所に尋ねあたりません」とか「転居先不明で配達できません」という理由によるものでした。寄贈していただいた時から時間が経過し過ぎてしまったからでしょうか。引き続き当館とつながりを持ち、転居の場合には新住所のお知らせをしていただく方

もいらつしやいますが、今後は、どの方にもお知らせが届くように心がけたいと思います。

寄贈者の方が見学にいらつしやると、事務室へ声をかけていただくことがあります。このとき、企画者としてはとても嬉しく感じます。資料を寄贈していただく際には、その資料がどのようなものか、うかがいます。つまり、いつ、誰が、どのようなときに使ったものか。また、家のどこに保管していたもので、そのときにはどんな状態だったかというようなことも、その資料の性格によつてはお聞きすることがあります。寄贈時にはご本人に時間がなかったり思い出せなかったという事で、資料について十分なデータを得ることができないこともあります。そこで、このような機会のあるときに、あらためて寄贈者の方からお話をうかがい、その資料がもつデータを増やします。

\*\*\*展示室のアンケートから\*\*\*

ここでは、「展示されている資料のなかで、ご自身の思い出と重なるものについて、どのような思い出か教えてくださいます」という問いに対していただいた内容を

を紹介しましょう。

◆帯締め▽自宅（実家）の前の家がこれらを製作しており、子供の頃、糸の撚り作業等たびたび目にしていた。60歳代・男性◆足踏みミシン▽昔家にあったが、けつこう難しかった。ものさし▽今でも母のものがある。48歳・女性◆足踏みミシン▽ついこないだまで家に有った様な気がしています。39歳・女性◆足踏みミシン▽平成八年一〇月に亡くなった母が息を引き取る数日前まで使っていたシンガミンシは、展示品より少々大振りであったが、機能・外型は全く同じ。その後誰も使わなくなり邪魔になったので分解廃棄してしまった。今、このミシンを見てなつかしく母が思い出される。73歳・男性◆戦時中の紙芝居▽紙芝居をずっと演じています。とても素晴らしい日本の文化だと思ふし楽しいし、子供と一体となれるからです。戦争時のものは見たことがないので見てみたいです。紙芝居が珍しいものなので是非演じているところを見てみたい。又は演じさせてほしい。54歳・女性◆お供え作りの写真▽友人の祖母を思い出す。正月過ぎに友人の家を訪問するとよく大きなお供え餅が飾ってあったからだ。22歳・男性◆全資料▽戦後二〇年代生まれの私にとってはどれも

前半生に係わる品物ばかりです。51歳・男性◆柳行李（小）▽これを寄贈させていただいたのですが、あれは昭和一九年八月二十五日だったと思います。集団疎開に行く時母がぬつてくれた綿入れの「ちゃんちゃんこ」等全ての自分の財産を入れ、一年余の間、長野の上林温泉のせきや旅館にもつていったものです。今は平和な時代になり、こうやって見られることが誠にありがたく感じます。67歳・男性◆「それいゆ」▽私と苦楽を共にした「それいゆ」がガラスケースに入つて飾られている姿を見ました時思わず涙が出ました。77歳・女性◆ねこあんか▽冬の夜の夜は特に奥座敷は暗く寒々としていて寝床に入るのも恐ろしい位でしたが、早めに布団の中に入れてネコあんかの暖かいぬくもりで安らぎを覚えたものです。女性◆柳行李▽祖母に関係したことですが、幼少の頃に柳行李にのつて遊んでしかられたこと。44歳・女性◆餅つきの写真▽餅つきは一族分をまとめてついたので一日がかりで男はもちろん女も子供も手伝い、ワイワイと賑やかにしていました。二月二十四日―二十五日頃のことです。昭和三〇年代の話です。55歳・男性◆展示の詳細については、「かたりべ」65号を参照してください。（福岡）



収蔵資料展ただ今準備中!

浮世絵ぞぞろ歩き

七月十七日(水)〜九月二九日(日)

今年度最初の収蔵資料展は、館蔵の浮世絵を中心に展示いたします。当館では、開館以来、往時の豊島区の姿を知る手掛かりとして、浮世絵版画の収集をしてきました。これまでも、常設展、特別展、収蔵資料展のなかで重要な視覚的資料として展示内容に合わせて展示・公開してきましたが、今回はあらためて浮世絵に

スポットを当ててみたいと思います。

ここに紹介する二枚の浮世絵版画は、どちらも初代歌川広重が不二見茶屋を題材に描いたものです。不二見茶屋とは、

現在の学習院大学構内(目白一―五)の高台にあった茶屋のことです。この茶屋からの眺望はとても良く、富士山が望める江戸名所の一つでした。

安政元年に描かれた①「東都名所年中行事 十月雑司かや会式参り」は、江戸の年中行事を描いた美人画です。鬼子母神の御会式参りの帰り道、不二見茶屋で二人の女性がゆつたりとくつろいで富士山を眺めています。二人は当時最新のファッションに身を包んで祭りの日のおしやれを楽しんでいるのでしょうか。座った



①「東都名所年中行事 十月雑司かや会式参り」  
安政元年(1854) 広重画 館蔵

女性の左手もとにあるのは、鬼子母神土産の風車です。二人の背後に花咲く菊は、雑司ヶ谷のさらに北東、駒込・栗鴨あたりの菊見の賑わいを予感させます。

四年を隔てて描かれた②「富士三十六景 雑司かや不二見茶屋」は、今度は美しい眺めに描写の中心が移ります。場所も視点もほとんど同じ二枚の絵ですが、広重の目はすっかりその景色に釘付けです。眼下には、刈り取りも終わった稲田が広がります。不二見茶屋のすぐ下方には、ゆるやかな神田上水が流れ、川沿いの道を歩く人影もちらほら。この一帯は夏には蛭狩りの名所として知られていました。はるか先に見える富士山は、秋の空にくっきりと浮かんでいます。茶屋の

今回の収蔵資料展では、前期(七月一七日〜八月一七日)・後期(八月二〇〜九月二九日)の二回に分けて、このような豊島区およびその近隣を題材にした浮世絵版画のほか、近代版画、おもちゃ絵、版本、復刻浮世絵など、多彩な館蔵品を展示いたします。もちろんいつも常設展パネルでご覧いただいているお馴染みの浮世絵も登場いたします。ぜひお立ち寄り下さい。

(葉師寺)



②「富士三十六景 雑司かや不二見茶屋」  
安政5年(1858) 広重画 館蔵



# セピア色の記憶

## 第1回 池袋東口に都電が走っていた頃



この二枚の写真は、ほぼ同じアングルで撮影した昭和四二（一九六七）年八月七日（松井一彦氏撮影・提供）と現在（平成一四年四月二五日）の池袋東口駅前の様子です。地図に示した\*印は撮影地点を、↓は撮影方向を示しています。以下二枚の写真を見比べていきましょう。

停留所に停車中の都電のうち、右側は一七系統で、池袋駅前と（銀座）数寄屋橋とを結んでいたもの。左側は二〇系統



で、江戸川橋と（神田）須田町とを結んでいたものですが、行き先の表示は途中の「（駒込）神明町車庫」となっています。当時二〇系統が護国寺を経由して池袋駅前まで乗り入れるのは休日に限られていたため、撮影日の八月七日は日曜日だったことになります。

また、都電で使用されてきた車体番号六〇〇〇系は、正面のライトがひとつであることから「一球さん」という愛称で親しまれ、車体番号六一五二の車体が最近荒川遊園に保存されることが決まっています。左側の車体番号は六一〇六であり、保存される車体と同型のものです。

なお、一七系統は昭和四四年一〇月二六日に、二〇系統は同四六年三月一八日に廃止となっています。

二両の都電のうしろにある大きな建物は、左側が西武百貨店、右側が丸物百貨店です。西武百貨店の一階部分には「日本勧業銀行」の看板が見えます。日本勧業銀行は、昭和四六年に第一銀行と合併して第一勧業銀行となり、みなさんご存じのように、今年四月に三銀行合併によ



池袋東口の地下工事 昭和38年(1963年) 3月撮影 高木進一氏撮影・提供

りみずほ銀行となりました。一方、右側の丸物百貨店（「MARUBUTSU」）との看板が見える）は昭和四六年六月に閉店。同年一二月に専門店街からなる池袋バルコとなり、現在に至っています。これらの建物は、外観や内装に大きな変化が見られますが、基本的な構造は当時のまま現在に受け継がれています。

池袋東口は、昭和三〇年代後半以降、駅前地下街や地下駐車場工事の実施（写真参照）、またこれらの工事に伴う緑地帯の新設や横断歩道位置の移動などが行われました。そして、冒頭に掲げた写真が撮影された昭和四二年には、東口駅前広場はほぼ現在の姿を整えました。高度経済成長期の終盤、かつて東京の市街地を走り回っていた都電が次々と廃止され、かわって地下鉄が都市交通の主役へと台頭していく頃です。

（秋山）



**Q** 私のおばあちゃんは戦前の生まれですが、池袋というと「コワイ」という印象を持っているようなんです。私には、とてもそんな風には見えません。池袋は明るく楽しい街のように思えるんですが、おばあちゃんは、若い女が池袋なんかにいっちゃあぶない、と言ったりするんですけど……。

**A** ある年代の人（特に女性）には池袋、とりわけ西口側はコワイというイメージがあるようです。今の街の様子からは考えられないのですが、その原因は、第二次大戦後にできあがった「ヤミ市」にあります。

「ヤミ市」というのは、戦後すぐのひどいモノ不足・食糧不足の時代に政府の統制や公定価格によらない商売をしていたマーケットのことです。池袋・新宿・渋谷・新橋など主要な駅の周りに、さまざまな露店が軒をつらねて「ヤミ市」をつくっていました。配給などでは足りないモノを求めて人々が集まり、またいろいろな商品が持ち込まれました。その中にはいかがわしい

店もあり、暴力団などが関わっている場合もあって、「ワイザツ」とか「混乱」とかいったイメージが広がります。そうして、女性や子どもは近寄れない、「コワイ」という感じが生まれたのです。今では「ヤミ市」をそうしたマイナスイメージではなく、戦後復興の原点としてとらえようという考えもあります。くわしくは郷土資料館の常設展をのぞいてください。

多くの「ヤミ市」は、戦後数年で整理され、姿を消していきしましたが、池袋西口にはなぜか一九六〇年代初頭まで残っていました。その様子は五木寛之の小説『青春の門』の一節で次のように描かれています。

池袋の街は、ようやく暮れようとしていた。西口のマーケットの一面には、すでにネオンと、流行歌のレコードと、ヤキトリの煙とがあふれて、そこだけ他の通りより早く夜がやってきているように見える。

信介は西口マーケットの外側をぐるりと歩き回り、大体の地理を頭におさめた。それから、迷路のような

路地を端の方からゆっくりとたどって行った。そこは以前、古い映画で見たアルジェのカスバを思わせる場所だった。小さな一間ほどの間口の雑多な店が入り組んで続いており、ベニヤ板とトタン屋根と、傾いた軒と派手な看板、そしてモツヤ、煮込みや、いろんな種類の匂い、そして水たまりと、臭気が混じりあって渦を巻いている。

昼間から酔っぱらった労務者たちが大声で叫びあっている店があった。太股までスカートをめくりあげ、うちわで風を送っている乳房の大きな娘もいた。ラジオから流れる歌声に合わせて、子供の甲高い声が最近はやっている「キス・オブ・ファイヤー」をうたっていた。

池袋西口には、当時学芸大学附属小学校や立教大学などがあり、そこに通う子どもや女子学生の間には、「ヤミ市」やその付近を通らなくてすむように、池袋でなく、わざわざ椎名町や目白の駅で降りて、通学する場合もあったといえます。こうした「ヤミ市」も東京オリンピック

をひかえた一九六〇年代前半には姿を消し、また、近年は再開発がすすんで池袋西口は容貌を一変してしまいました。「コワイ」という印象に若者たちが違和感をもつのは当然です。

（Q：すずな、A：あおき）



西口マーケットの様子（昭和35年撮影提供：豊島新聞社）写真左奥には東横百貨店（現在の東武百貨店）、中央奥には西武百貨店が見える。



# 郷土資料館からのお知らせ

## 郷土資料館年間事業予定

### 展 示

◇第1回収蔵資料展 7月17日～9月29日

〔浮世絵ぞろ歩き〕

◇第2回収蔵資料展 10月11日～1月12日

〔豊島区の地図と絵図〕（仮称）

◇第3回収蔵資料展 1月24日～3月30日

〔戦中・戦後の区民生活〕（仮称）

### 講 座

◇地域史講座①（3回） 8月～9月

〔博物館資料を使って〕（仮称）

◇都電車庫見学会（2回） 8月

◇地域史講座②（3回） 10月～11月

〔江戸の名所めぐり〕（仮称）

◇地域史講座③（3回） 11月～12月

〔村絵図をあるく〕（仮称）

◇歴史講座（3回） 2月～3月

第3回収蔵資料展関連を予定

### 刊 行 物

◇館だより「かたりべ」 66号～69号

◇新着図書情報 13号～24号 月1回

◇研究紀要（付・01年度年報）第17号

9月発刊予定 価格未定

◇調査報告書第15集 3月発刊予定

〔豊島氏編年史料Ⅲ〕 価格未定

### 整 理

◇資料集中整理期間

5月19日（日）～7月16日（火）

◇区内諸家寄贈資料の整理作業ほか

### 長期休館

◇資料燻蒸、整理作業のための全館休館

5月19日（日）～6月10日（月）

◇展示替えに伴う全館休館（予定）

①7月8日（月）～7月16日（火）

②9月30日（月）～10月10日（木）

③1月13日（月）～1月23日（木）

### 調 査

◇調査報告書刊行に向けての調査

中世豊島氏研究会の開催 10回

◇収蔵資料展開催のための調査

\*都合により、事業内容や開催時期に変更が生じる場合があります。事業の詳細につきましては、『広報としま』紙上でご案内いたします。

## 編集後記

「かたりべ」66号をお届けいたします。46号から65号までの五年間20号分は簡易印刷でしたが、久しぶりにオフセット印刷に戻りました。写真真図版の鮮明さが嬉しい今日この頃です。

また、一部筋で好評を博していたものの、学芸プロの一人上の都合によりしばらくの間休載していた四コマ漫画「資料館の法則」も、この間に大量のネタを仕入れ、さらに腕を磨いて今号より復活です。

なお、七月中旬までの間、資料集中整理および展示替えのため、郷土資料館の開館日が限られています。ご利用の方々にはご不便をおかけいたしますが、ご了承願います。（あき）

かたりべ

No.66

2002年5月31日

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話 03-3980-2351